

株主、投資家のみなさまへ

平素よりコカ・コーラウエスト株式会社をご支援いただきまして誠にありがとうございます。2010年1月1日、社長に就任いたしました吉松民雄でございます。

当社は、この10年間ボトラーの統合を行い、日本最大、世界でも有数の規模を持つボトラーに成長いたしました。また、グループ子会社の統合・再編も進め、当社グループの組織運営体制が整い、新経営陣のもと2010年をスタートいたしました。

株主、投資家のみなさまに、2009年12月期の業績や当社グループの経営方針などについてご報告させていただきます。



2009年12月期の経営成績と業績

経済環境は、前期の米国の金融危機を発端とする世界規模の金融・経済危機の影響を引きずって始まりました。政府の経済対策によって輸出や生産など一部に持ち直しの動きがみられたものの、デフレや円高の影響により企業業績および雇用・所得環境が悪化し、設備投資や個人消費が低迷するなど、依然として厳しい状況が続いております。

清涼飲料業界におきましては、景気悪化に伴う消費者の節約志向の強まりや夏場の天候不順の影響により市場成長はマイナスとなるとともに、低価格化がさらに進行するなど、清涼飲料各社を取り巻く経営環境は一段と厳しさを増しております。

このような厳しい経営環境の中、当社は、さらなる経営基盤の強化を目的とし、2009年1月1日付で、営業機能を担う子会社であったコカ・コーラウエストジャパン株式会社、近畿コカ・コーラボトリング株式会社および三笠コカ・コーラボトリング株式会社と合併し、新会社「コカ・コーラウエスト株式会社」としてスタートいたしました。

当期の取り組みとしては、お客さま起点で一貫性・統一性のある営業戦略の展開を図るため、従来の販売地域毎の営業体制からチャネル毎の営業体制に変革するとともに、お客さまの購買行動に基づく効果的なマーケティング手法を導入いたしました。また、ベンディング事業における市場シェアおよび利益の拡大を目的とし、ベンディングオペレーターの買収や業務提携を積極的に進めました。さら

に、営業・販売機能の強化や間接コストの削減に向け、当社グループにおいてエリア別に販売および物流を担当していた子会社3社を機能別に再編するための準備を進め、2010年1月1日に機能別新会社3社が発足いたしました。

また、従来、全国コカ・コーラボトラーと日本コカ・コーラ株式会社の共同出資により設立したコカ・コーラナショナルビバレッジ株式会社が担当していた製造・物流業務のうち西日本地域における業務を2009年1月より当社に移管しました。新しいサプライチェーンマネジメント(SCM)体制の確立ならびに営業と連携したきめ細かい運用により、製造・物流コストの削減を図りました。

さらに、厳しい経営環境の中、業務の効率化と要員体制の見直しにより生産性向上を図るとともに、「1円でも安いコストで会社を運営する活動」をグループを挙げて推進するなど、間接コストの削減に努めましたが、当社の想定以上の経営環境の激変により、当期における当社グループの売上高は3,696億9千8百万円(前期比6.5%減)、営業利益は22億4千2百万円(同比78.7%減)、経常利益は20億8千5百万円(同比81.1%減)となりました。なお、当期純損益は、売却などの処分が方向づけられた資産の減損ならびに人事制度・労働条件の早期整備に伴う損失の計上もあり、前期に比べ77億2千4百万円減少し、75億9千4百万円の当期純損失となりました。

Coca-Cola West

—平成22年度 コカ・コーラウエストグループ経営方針—

**「3つの変革」を徹底して実行し、
収益目標を必ず達成する。**

1. 営業の変革
2. SCMの変革
3. お客さま起点への行動変革

筋肉質で強固な企業集団へ

Coca-Cola West

—コカ・コーラウエストグループ経営理念—

飲料ビジネスの未来を創造します

私たちは、

- ❖ お客さまに喜んでいただける商品・サービスをお届けします
- ❖ 社員一人ひとりの働きがいと生活を大切にします
- ❖ 継続的な成長により株主の信頼や期待に応えます
- ❖ 社会や環境とのつながりを育みます

2010年12月期の経営方針および業績予想

清涼飲料業界における消費低迷や低価格化など、経営環境は引き続き厳しい状況となることを見込まれる中、当社グループは、「**3つの変革**」を徹底して実行し、**収益目標を必ず達成する**”ことを経営方針としております。

「**営業の変革**」においては、お客さまの購買行動に基づく効果的なマーケティング手法を世界水準まで高めることにより、売上・利益の拡大を図るとともに、収益管理を徹底します。また、効果的・効率的な組織運営体制の構築ならびに営業・物流拠点の再編を進めます。

「**SCMの変革**」については、西日本地域における当社を中心としたSCM体制をさらに進化させます。調達から販売物流まで一気通貫でのSCM体制とすることで効率化を図り、コスト削減を実現します。また、調達から販売物流まで同期化することで、市場・カスタマーへの対応を迅速化・高度化し、競争優位を確立します。

3つ目の変革「**お客さま起点への行動変革**」は、お客さまから物事が起こるという考えに基づき、全ての価値判断基準をお客さまとする行動へ変革することであり、全ての事業活動の基本とします。

これらの3つの変革を徹底して実行することにより、厳しい経営環境においても着実に売上・利益を拡大できる「**筋肉質で強固な企業集団**」となることを目指してまいります。

業績につきましては、売上高3,693億円(前期比0.1%減)、営業利益70億円(同比212.1%増)、経常利益66億円(同比216.5%増)、当期純利益36億円を見込んでおります。

配当について

当社は、経営理念において「継続的な成長により株主の信頼や期待に応えます」と掲げ、株主のみなさまへ安定配当を継続することを基調とし、積極的な利益還元を実施することを利益配分に関する基本方針としております。

2009年12月期の業績、2010年12月期の業績予想および今後の経営環境等を総合的に勘案し、誠に遺憾ではございますが、2009年12月期の期末配当金につきましては、1株につき21円とし、中間配当金とあわせました年間配当金は、前年より1円減配の42円とさせていただきます。2010年12月期の配当金(予想)につきましては、1株につき、中間配当金20円、期末配当金20円、年間配当金40円を、それぞれ予定しております。

株主、投資家のみなさまにおかれましては、今後とも変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2010年3月

代表取締役社長

吉松民雄